

東洋医学通信

<発行元>

阪神中国医学研究所
尼崎市長洲本通1-16-17

<連絡先>

06(6488)8149

顔面神経麻痺

顔面神経麻痺は、顔面神経によって支配されている顔面筋の運動麻痺です。急性に発症することが多いです。原因疾患が明らかな症候性顔面麻痺と、原因が不明な特発性顔面神経麻痺(ベル麻痺)とに分けられます。

原因疾患として多いのは、ヘルペスウイルス感染症によっておこる(ラムゼイ・ハント症候群)や耳下腺腫瘍などの腫瘍・糖尿病などの代謝性疾患が原因となる場合もあります。

ここでは鍼灸の治療効果があるベル麻痺について説明します。原因は不明ですが、寒冷暴露(寒さにさらされること)、アレルギー、局所のむくみ、ウイルス感染などが原因ではないかと考えられています。

症状は、突然始まる片側顔面筋の運動麻痺が主な症状です。額にしわを寄せられない、眼を閉じられない、口角が垂れ下がる、口笛が吹けなくなる、口角からよだれが垂れる、などの症状が起こります。麻痺側の舌の前方3分の2の味覚障害を伴うことがあります。

【顔面神経麻痺の鍼灸治療】

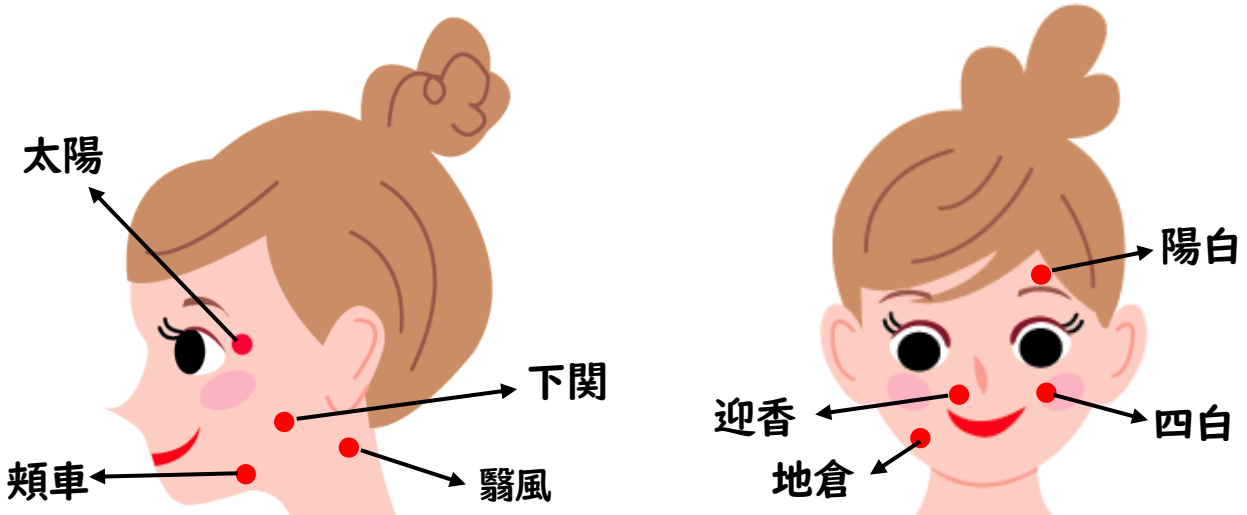
発症後、なるべく早く治療を開始することで回復効果が期待できます。発症後14日以内に治療開始すれば75〜90パーセント治療します。難治性の症状でも継続して治療すれば一定の治療効果を発揮することができます。当院での治療は麻痺側の顔のつばに鍼を刺し、その鍼に低周波を流します。

その時に筋肉が電気刺激で動けば、完全治癒が期待できます。

その他、首肩や手のつぼも使うことがあります。

顔面神経麻痺の症状に対する局所療法としてよく使用される経穴を紹介させていただきます。

- ・ 太陽(タイヨウ)：眼精疲労などの目の疾患や、頭痛などにも使用されます。
- ・ 迎香(ゲイコウ)：鼻水、鼻づまりなど鼻の疾患にも使用されます。
- ・ 地倉(チソウ)：胃の働きを整える作用もあります。
- ・ 陽白(ヨウハク)：目の疾患や、頭痛、不眠症などにも使用されます。
- ・ 四白(シハク)：目の疾患や、めまい、上歯痛などにも使用されます。
- ・ 下関(ゲカン)：耳の疾患や、頭痛、めまいなどにも使用されます。
- ・ 翳風(エイフウ)：顔面神経麻痺の他、特に耳の疾患に使用されます。
- ・ 頰車(キョウシャ)：下歯痛や耳の疾患などにも使用されます。



鍼灸師 宮崎正康